



JSFM

みんなで考える幹細胞研究

「**生命の萌芽**」の



これまでと

これから



市民公開講座

開催日時: 2023年3月25日(土)
14:00-17:00

開催場所: 国立京都国際会館

シンポジウム

不妊・不育当事者からの
メッセージ

野曾原 誉枝
(NPO法人Fine)

こちらの資料は、公開用として一部編集をしています。また、二次利用など資料の取り扱いにはご注意をお願いいたします。

不妊・不育当事者からのメッセージ

2023年3月25日

特定非営利活動法人Fine（ファイン）

理事長 野曾原誉枝

© 2023 NPO法人Fine



野曾原誉枝 NPO法人Fine（ファイン）理事長

1968年生まれ 福島県郡山市出身
大学卒業後、日本電気（株）に入社。コンピュータ汎用機設計用CADソフト開発から、ビジネスサーバー販売促進、マーケティング、省エネデータセンターコンサルティングに従事。企業講演、セミナー講師、プレゼンテーション、企画立案などを多数経験し、2012年9月に退職。

2013年、NPO法人Fineに参画し、2014年理事、2022年9月理事長就任。
若年層から幅広い世代への妊活、妊娠、不妊、出産に関わる啓発、企業や自治体との協働事業推進、資金調達などを主に担当。

【不妊治療経験】

38歳で管理職になると同時に妊活スタート。6年間の不妊治療と仕事の両立を経て、2012年12月に男児を出産。

【資格・役職】

日本ファンドレイジング協会認定准ファンドレイザー
一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントファシリテーター
一般社団法人ドゥーラ協会認定産後ドゥーラ

© 2023 NPO法人Fine

2

NPO法人Fineが独自で調査したアンケート・調査データが含まれます。

データの利用・転載・流用が必要の際は、Fineへご相談ください。

無断利用、無断転載、無断流用はご遠慮ください。



Fineは不妊経験者で構成されています

Fineとは

不妊体験者による、不妊体験者のための、
セルフ・サポート・グループ（自助団体）です。

名称	特定非営利活動法人Fine（ファイン）
設立	2004年1月（法人化は2005年1月）
所在地	〒135-0042 東京都江東区木場6-11-5サニーコーポ・K201号室
理事長	野曽原誉枝
スタッフ数	理事：6名（理事長含む） スタッフ：27名（2023年03月現在）
会員数	2,668名（2022年11月現在）
目的	<ul style="list-style-type: none"> 不妊治療患者が正しい情報に基づき、自分で納得して選択した治療を安心して受けられる環境を整える 不妊体験者が社会から孤立することなく、健全な精神を持ち続けられる環境を整えることにより社会貢献する
活動分野	①保健、医療または福祉の増進を図る活動 ②男女共同参画社会の形成の促進を図る活動 ③子供の健全育成を図る活動 ④前各号の掲げる活動を行う団体の運営・活動に関する連絡、助言または援助活動
HP	https://j-fine.jp/

当事者の環境改善を目的に、①啓発・情報提供、②公的機関（国への要望書提出、国会勉強会など）への働きかけ、③自助の仕組みであるピア・カウンセラー養成事業およびピア・カウンセリング事業を設立当初から継続、④医療機関との連携、⑤当事者同士のコミュニケーションの場の提供を、継続して活動しています。



Fineは、5つの活動を行なっています



不妊治療、当事者の負担軽減のための要望書

薬剤承認、薬剤保険適用、経済的負担軽減、仕事との両立、
若年層に対するヘルスリテラシー教育など…



薬剤や治療に関する要望書

セトロタイド（GnRHアンタゴニスト）承認要望書
(2005年4月19日)



遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン（FSH）製剤の排卵誘発への
効能追加および保険適用承認要望書
(2006年5月19日)



黄体ホルモン補充製剤プロゲステロン膣座薬の承認要望書
(2009年8月12日)



性腺刺激ホルモン製剤の自己注射および自己注射のための
ペン型注射剤の承認要望書
(2007年8月7日)



AUGMENTの承認要望書
(2015年11月20日)



その他の要望書

衆議院 法務委員会へ「生殖補助医療の法案の早期成
立の要望書」を提出 (2020年11月30日)



三原じゅん子厚生労働副大臣へ「不妊治療の負担軽
減に関する要望書」を提出 (2020年10月22日)



不妊治療への支援拡充を目指す議員連盟へ「不妊治
療の負担軽減に関する要望書」を提出 (2020年7月15
日)



厚生労働省へ「不妊治療の経済的負担軽減・仕事と
の両立に関する要望書」と第10回目の署名簿を提出
(2020年2月28日)

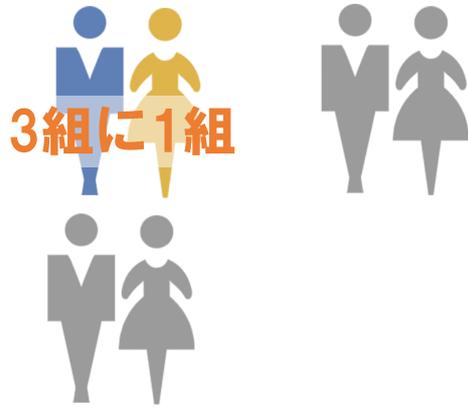


詳しくはこちら→<https://j-fine.jp/activity/act/index.html>

不妊治療の現状

不妊カップルの割合

不妊について心配したことがあるカップル



35.0%(2015年) → 39.2%(2021年)

不妊の検査や治療を受けたことがあるカップル



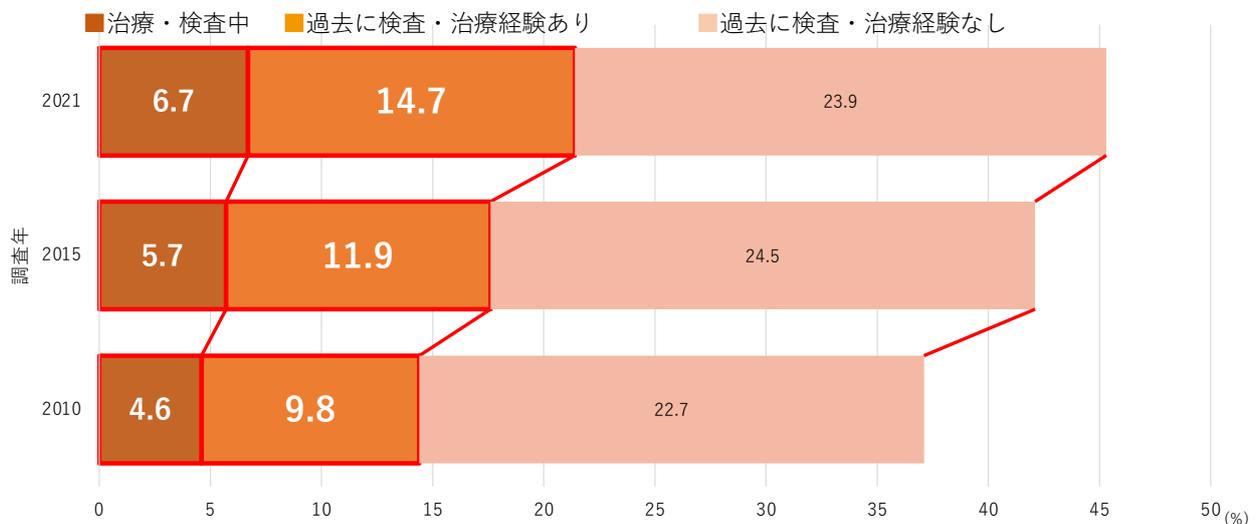
18.2%(2015年) → 22.7%(2021年)

国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)をもとにNPO法人Fineが作成

<https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/JNFS16gaiyo.pdf>

© 2023 NPO法人Fine

結婚5年未満の夫婦では6.7%が不妊に関する検査や治療を現在受けている

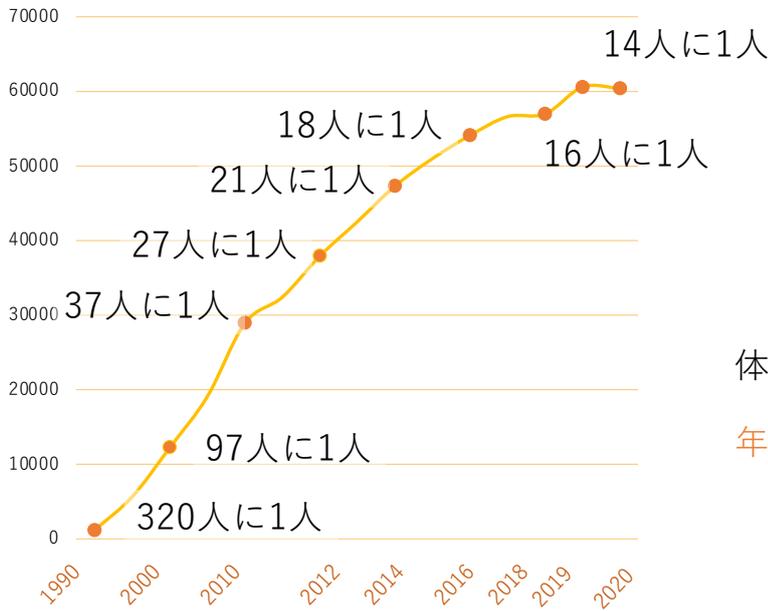


国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)をもとにNPO法人Fineが作成

<https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/JNFS16gaiyo.pdf>

© 2023 NPO法人Fine

高度生殖医療で生まれる子どもの数

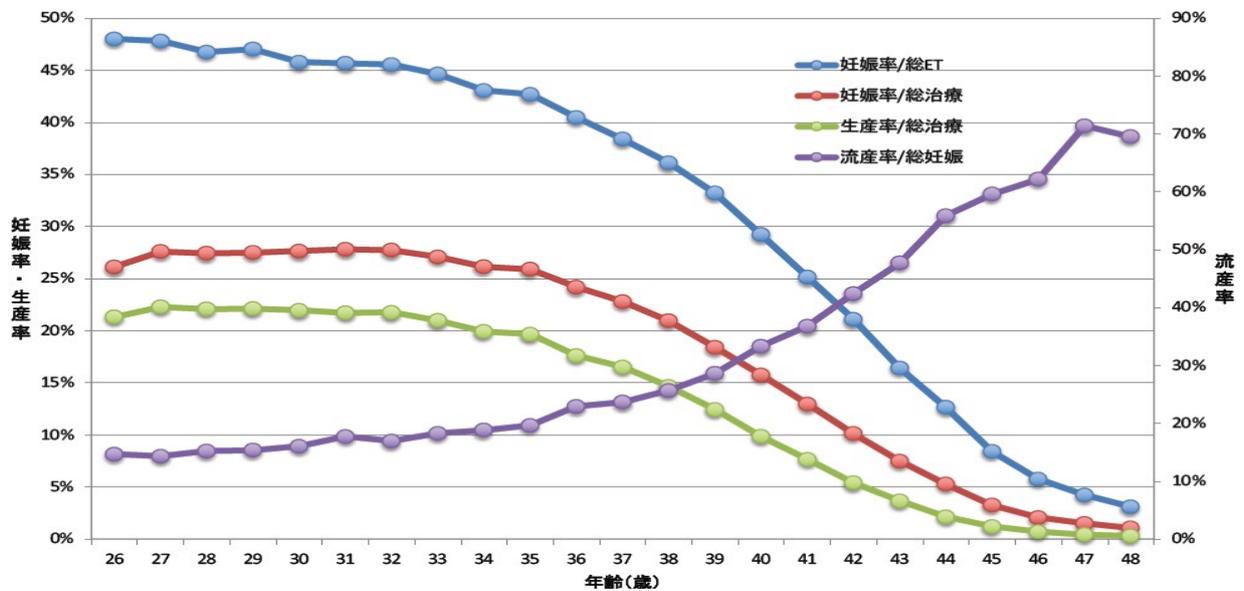


年々増加傾向

体外受精で生まれた子どもの数
年間60,381人（2020年データ）

*日本産科婦人科学会発表データよりFineにて作成

体外受精 ≠ 妊娠・出産



*日本産科婦人科学会 ARTデータブック2020より：<http://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/>

不妊治療の4つの負担



経済的負担

高額な治療費
長引く治療



身体的負担

治療に伴う副作用など



時間的負担

仕事と不妊治療の両立
スケジュール調整



精神的負担

焦り／悲しみ
周囲との関係
自己否定／感染症への不安／
職場での休暇取得の気苦労など

不妊治療保険適用の現状

不妊治療の費用の変化



一回にかかる費用は保険適用でどう変わった？ ※一部適用外もあります

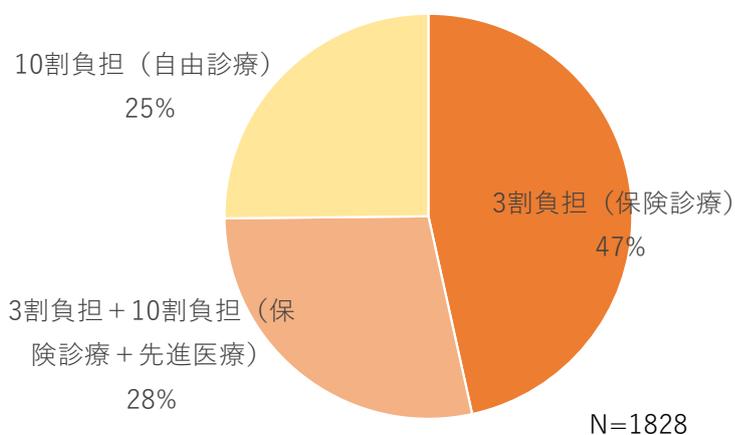


※<https://www.mhlw.go.jp/content/000913400.pdf>および<https://funin-fch.net/columns/その他/1205よりFine>にて算出
※体外受精、顕微授精は採卵1個、凍結なし、新鮮胚移植にて算出。薬剤や胚培養、凍結保存などの場合は、追加料金がかかります。

© 2023 NPO法人Fine

15

今受けている治療の自己負担額の割合



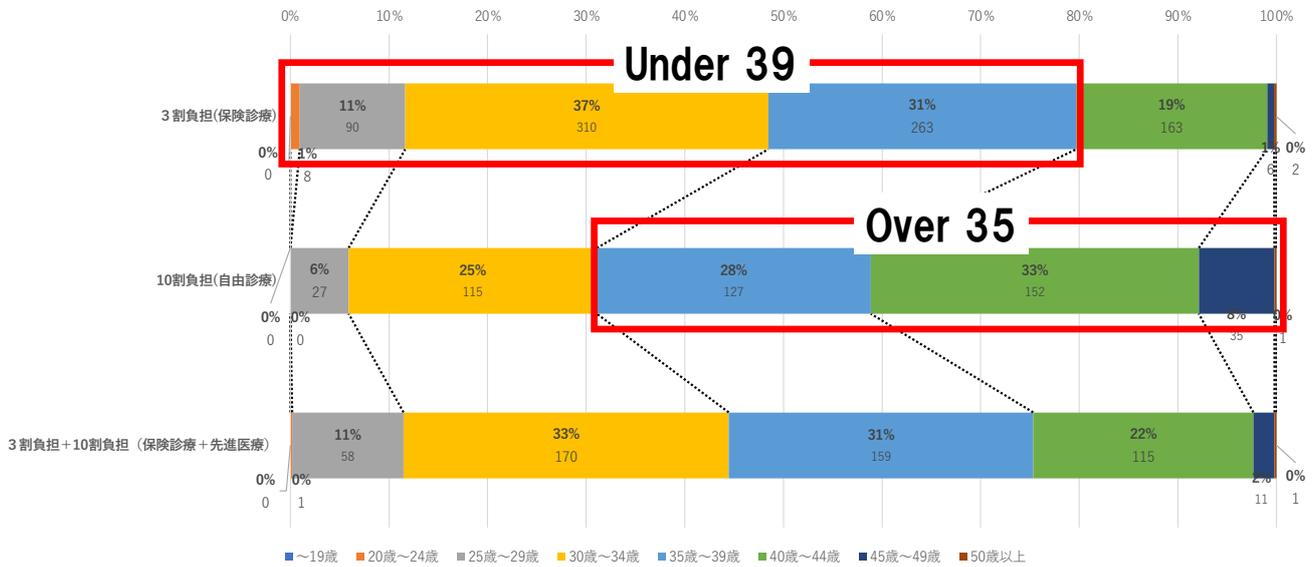
保険診療を
受けているのは

47%

*Fine Questionnaire about infertility treatment after insurance coverage 2022

© 2023 NPO法人Fine

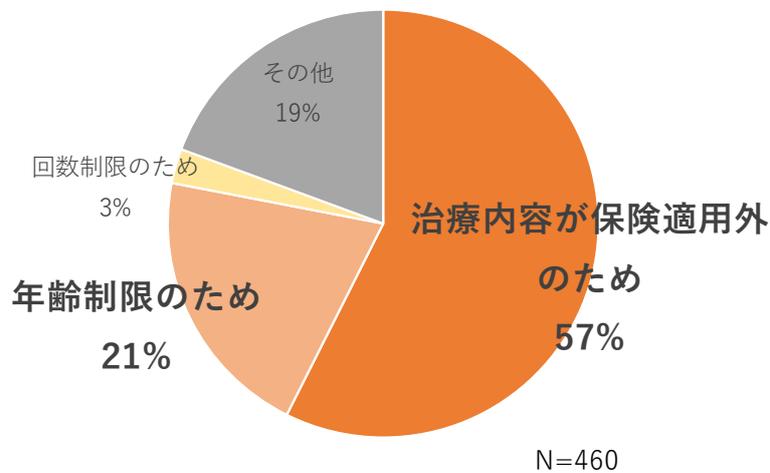
自己負担金額と年齢の関係について



© 2023 NPO法人Fine

17

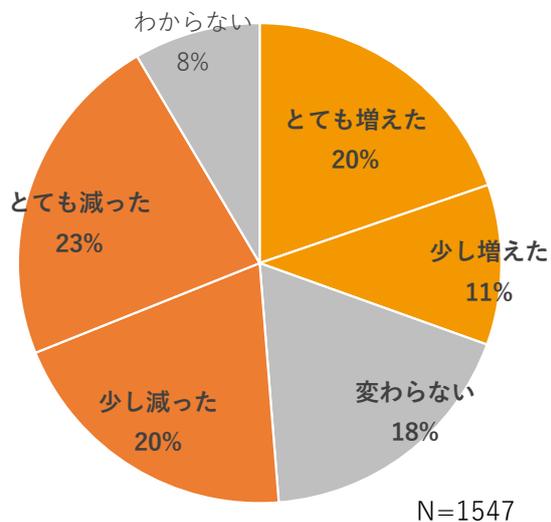
今受けている治療が10割負担（自由診療）である理由



*Fine Questionnaire about infertility treatment after insurance coverage 2022

© 2023 NPO法人Fine

支払っている治療費は 保険適用前と比べてどうなった？

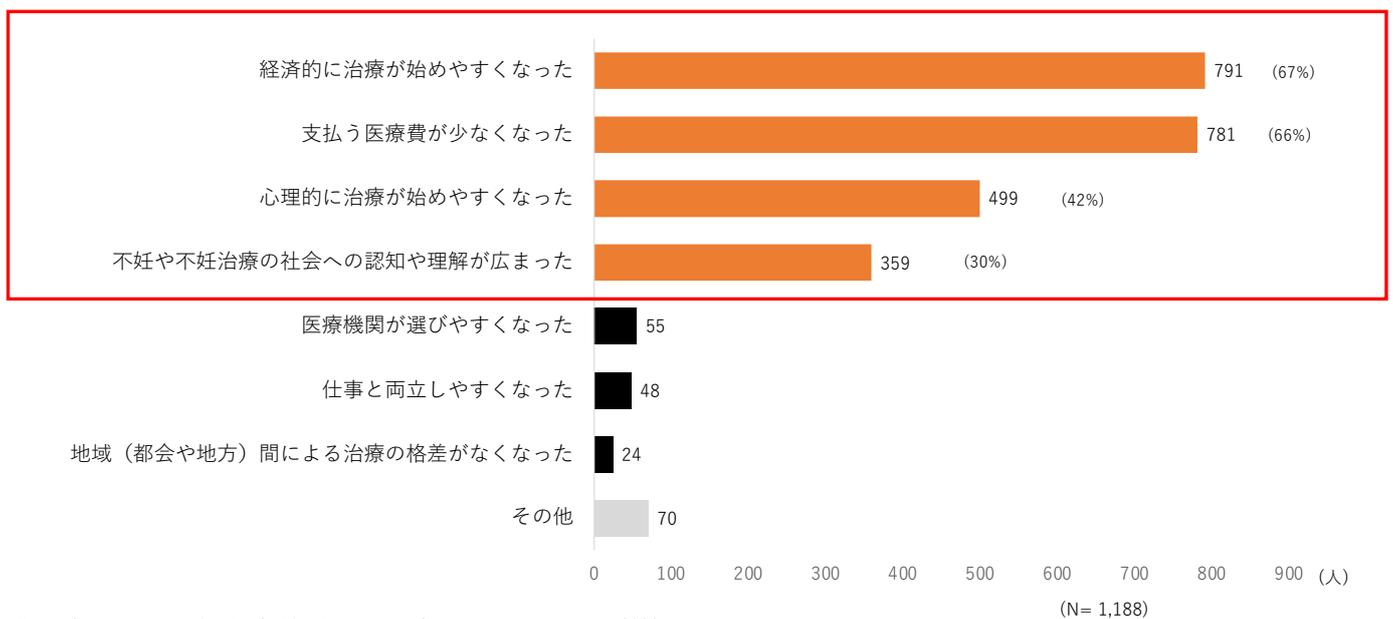


31% 増えた
43% 減った

*Fine Questionnaire about infertility treatment after insurance coverage 2022

© 2023 NPO法人Fine

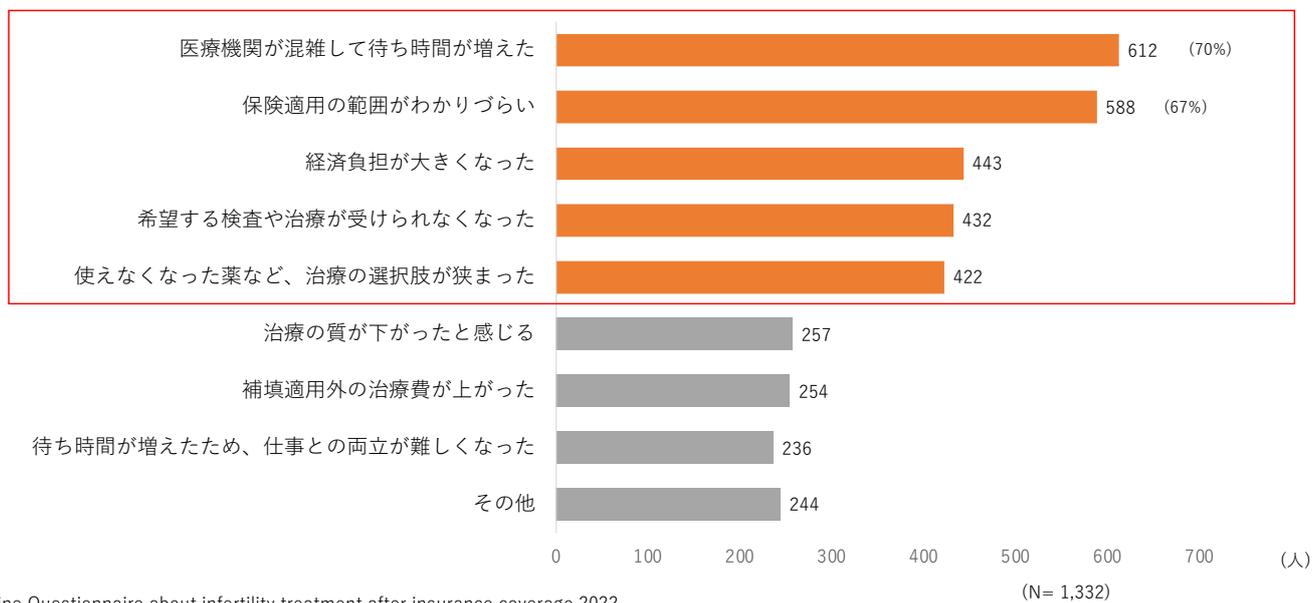
保険適用になって良かったと感じること



*Fine Questionnaire about infertility treatment after insurance coverage 2022

© 2023 NPO法人Fine

保険適用になって悪くなったと感じること



© 2023 NPO法人Fine

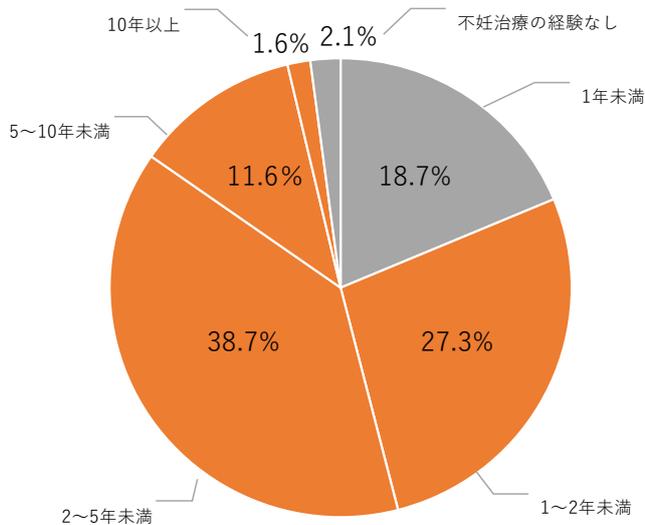
21

増える当事者の精神的負担

© 2023 NPO法人Fine

22

不妊治療の期間



全体の**79.2%**が
1年以上治療する

*Fine「仕事と不妊治療の両立に関するアンケートPart2」（2018年）

© 2023 NPO法人Fine

精神的な負担



自己否定

- 友達や周囲の人の妊娠を喜べない
- 妊娠できない身体
- 自己嫌悪、焦り、悲しみ

不妊症・不育症特有

周囲との関係

- パートナーとの意見の違い（気持ち／治療の進め方／お金etc）
- パートナーへのいら立ち
- 両親・義両親からのプレッシャー
- 職場でのスケジュール調整などによる気苦労
- 気持ちが伝えられない焦りと悲しみ

© 2023 NPO法人Fine

特に不育症当事者の精神的負担は大きい

孤立感

- 私は不妊症ではない？
- 妊娠しても喜べない
- 誰もわかってくれない、誰にも話せない

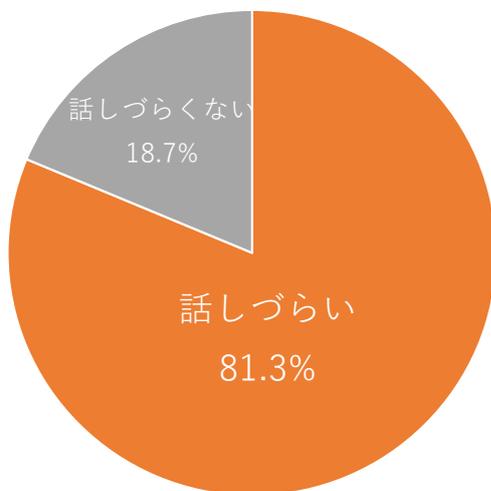
恐怖心

- また流産してしまうのではないかと
- 命を失うことへの恐怖

周囲からの声

- 流産はある一定数で起こるものだから、大丈夫
- 妊娠できるんだから、また頑張ろう
- 流産はまだX回目だし、大丈夫
- 妊娠できるだけまだいいじゃない
- 今度は無理しないように
- 身体を冷やさないように
- 仕事のしすぎじゃない？

不妊治療をしていることを 周囲に話づらいと感じるか？



不妊は周りの人に話しづらい

- 不妊であることを伝えたくない
- 仕事を減らされると思った
- 期待されなくなるといった
- 周囲に心配や迷惑を掛けたくない
- 妊娠しなかったとき職場にづらい

* Fine「仕事と不妊治療の両立に関するアンケートPart2」(2018年)

話しづらいつ感じる理由は？



「子どもがないほうが楽だよ」 「不妊治療をやめたら、すぐに妊娠する人多いみたいだから、やめてみたら？」と言われ、話しづらいつ感じました。

不妊治療のことを「**人工的に妊娠させるのか？**」「**そこまでするの？**」「自然に妊娠できなければあきらめたら？」と言われることが多いためです。

すでに1人子どもがいるので、「もう良いんじゃない？」と思われるのが嫌でした。

長く不妊治療していると「**かける言葉が見当たらない**」と言われ、話しづらいつになりました。

(不妊治療をしていることを)抵抗なく話すとして、「**賛否両論あるから言うものではない**」と言われたためです。

生まれた赤ちゃんに対して、あの子は体外受精の子だから、〇〇ができない、発達が遅いなどの**偏見を持つ人がいたので、話せませんでした。**

私以外は**男性の職場だったので、理解していただくために深い説明をしなければならないのが大変苦痛**に感じました。

部署に女性が1割もいなく、上司も全員男性のため**話しづらいつ**です。

病気でもないのに妊娠のために病院へ行くのはおかしいとされました。

* Fine「仕事と不妊治療の両立に関するアンケートPart2」(2018年)より

多様な不安や悩み

誰一人として同じ状況、経験はない



当事者の声

自分が不妊だと自覚した瞬間、自らの努力だけではどうにもなりそうにないことへ立ち向かうことに、ただただ不安でした。

そして、恥ずかしさと情けなさから、職場や親戚・友人には言えず、一人抱え込んで治療に励む日々。

治療を終えた今、思い出しても「苦しかった」の一言に尽きます。

Fineメンバー Kさん（東京都）

幼い頃から無意識に描いていた家族像を、医療の力を借りてでも作りたかった自分。

しかし、それでも結果が出ず、治療終結を選んでしまった自分。全て自己決定したことなのに「こんなはずではなかった」といろんな自分を受容できず、何か大切なものをなくして、呆然とその場に立ち尽くしたような感覚になりました。

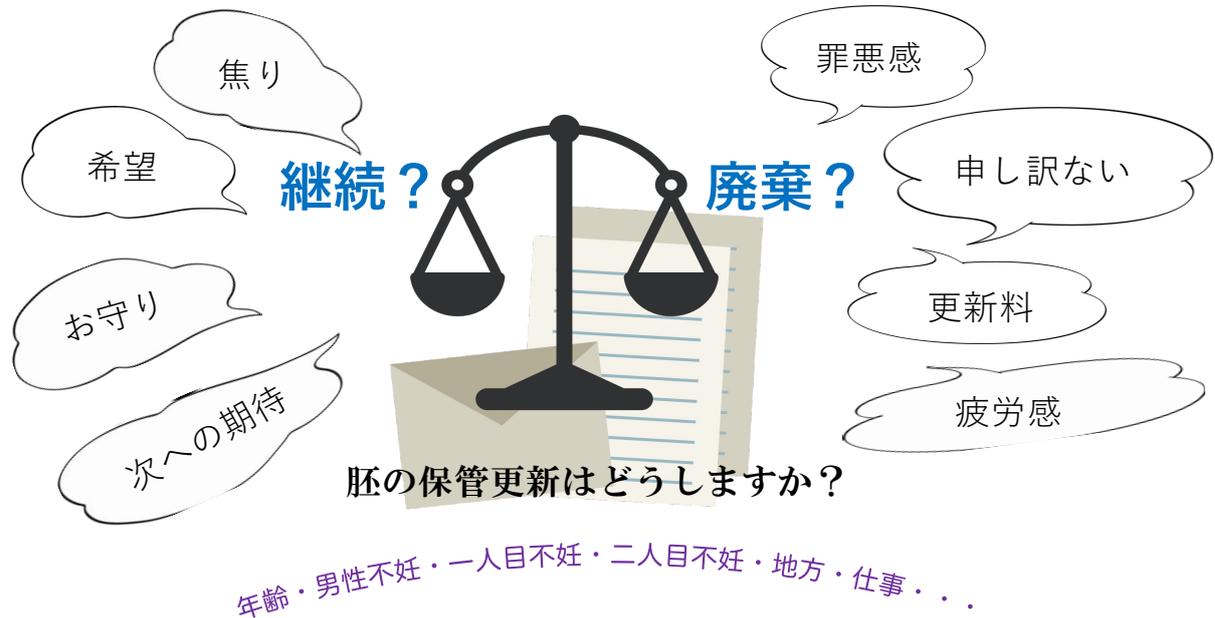
Fineメンバー Nさん（高知県）

29

不妊治療を休む、不妊治療をやめることは・・・

絶望 **失敗の人生**
社会に貢献していない
失敗者 **不幸**

保管している胚への思い



© 2023 NPO法人Fine

31

おわりに

医療者、研究者の皆様方の
日々のご研究、ご尽力に感謝申し上げます。

- 生殖医療はもとより、**医学界の進歩**は、不妊症・不育症当事者として**希望**になるケースがある。
- **さまざまな疾病への研究に役立てられる**ことは、当事者の精神的負担軽減の**一助**になる。そのためには**事前の正しい情報開示**があると**ありがたい**。
- ガイドライン、ルール厳守のため、第三者によるチェック体制などの**整備に期待**。
- 当事者の負担、思いを知ることは、当事者への寄り添いにつながる。

© 2023 NPO法人Fine

32

URL : <https://j-fine.jp/> 「NPO Fine」で検索



情報・
イベントカレンダー



カウンセリング



ご静聴いただき、ありがとうございました